

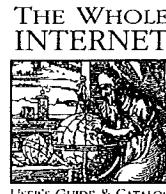
情報の道筋をつけたい

What we need is not the content, but the context.

ウェイズ

社長ブルースター・カール

Brewster Kahle



世界的ベストセラー THE WHOLE INTERNET

広告媒体としてのGNNに期待する同社のリサ・ガンスキ一さん。

そこでCD-ROMも検討したが、まだ標準がはっきりせず、異なった機種のコンピュータで同じ内容を有効に利用できなかった。個々のマニュアルをオンライン化する話も各社からあったが、別々に作っていては手間ばかりかかってしまう。

「一時はVIOLAという共通のプラウザーツールを開発した。ところがその後、インターネット上にモザイクなどが出てきて、機種によらず一つのオリジナルを使え、おまけに有効に流通できることが分かり、そちらへと移行した」とオンラインを担当するデール・ダグバーティーさん。

同社が始めたGNN (Global Network Navigator) は、出版関連としてはウェブを使った最も早いサービスで、『Whole Internet Catalog』やお勧めサイトの案内を含む、カタログや広告を掲載したサイトだった。最初は、加入者のみに有料で出版することも考えたが、まだ料金を徴収したりセキュリティを確保する方法がはっきりしないため、市場が進む方向をまず見定めることにした。

「とはいってもGNNは、ビジネスプランもないまま始めたというのが実情。しかし、流行に乗ってもうけたいというわけではなく、まずは新しいメディアにはどういうコンテンツがふさわしいかを見定めるために実験をしたい」とオライリーさんの本音ものぞく。

「いま多くのサービスは、テクノロジーとコンテンツがアンバランスなものばかり。でも、本当に必要なコンテンツは実際に使ってみなければ分からない。世間は、インターネットでのビジネスに浮かれているが、まずネットワークの上で価値あるものを見つけて育て、それから料金の問題などを考えればよい」とダグバーティーさん。

これからは、教育関係への応用を重視して、新しい出版メディアの実験を続けていく予定だ。



ブルースター・カールさんは、もともと超並列コンピュータのチップをデザインしていた。

「いまのインターネットは、巨大なネットワークの海の中に、情報のある島が脈絡がないままに点在している状態だ。そこに出でていっても迷うばかり。いまそこで求められているのは、こうした情報をつないでいく道筋、つまりコンテンツだ」と、WAIS社のブルースター・カール社長は言う。

WAISは「Wide Area Information Servers (広域情報サーバー)」の略で、インターネットの各所に点在するサーバーにWAISのソフトを入れておけば、利用者がどこに情報があるかを意識しなくとも、全体を一つのデータベースのように使えるというものだ。

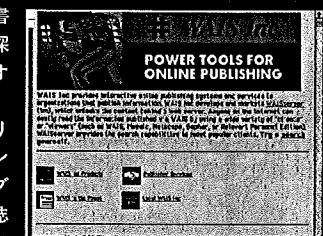
自分の端末から一つのキーワードを入力すれば、各所にあるデータベースを横断して検索することができる。あるキーワードで面白い結果が得られたら、「それに似たデータを探してほしい」とリクエストも出すことができ、比較的自然で自由な検索が可能だ。普通のWWWにアクセスした場合のように、自分で選んで一つ一つリンクをたどっていくという手間はいらない。

WAIS社は、広域で大量の多種データを統一的に扱うネットワークの時代が来ると考えた、超並列コンピュータで有名なシンキングマシンズ、『ウォールストリート・ジャーナル』を発行するダウ・ジョーンズ、大手の会計事務所ピート・マーウィック、アップルの各社が89年に始めた共同プロジェクトをもとに、92年に設立された。

出版社、書店、新聞社、図書館など、出版関連のページを探したければWAISはベスト。オンライン版の「Yellow Page」(電話帳)は便利だが、アメリカのみだ。書籍のディスカウントをしている出版社もある。ブルースター・カール氏の人物誌なら「Internet'95Show」のページで。読み疲れたら「Information Week」の「Cyber Vegas」で、トランプのブラックジャック・ゲームを。

- WAIS Netwatch
- CMP Publications
- Browse the WAIS Directory of servers

POWER TOOLS FOR
ONLINE PUBLISHING
WAIS Inc.



<http://www.wais.com/>



WAIS

出版社と付き合
いが多いので、
ピクトリア風の
落ち着いたオフ
イスにしたいと
いうWAIS。近
々、『WIRED』
などのあるサン
フランシスコの
ダウンタウンに
越す。



WAIS社の成果をもとにダウ・ジョーンズ社では、キーワードを使わない通常文章により巨大なニュース・データベースを検索できる「ダウ・ビジョン」というサービスを実用化しており、アップル社もLANの上で情報検索を行う「アップル・サーチ」という商品を出している。

未来の出版を目指して

WAIS社のソフトは、国会図書館のような政府機関や、『ニューヨーク・タイムズ』の電子新聞、大手の電子工業界誌を出すCMP社などの出版業界でも使われている。CMP社は20近くの雑誌を出しているが、各地にあるWAISのサーバーを使って、全国に散在する編集者が一つの雑誌を共同して編集してオンライン出版している。また、利用者のアクセスデータを集めることで、出版社はどういう記事がどういう地域で読まれているかを瞬時に調査することができ、雑誌の販売やその他の新規ビジネスにも役立てることができる。

「インターネットの出現で出版は根本的に変化する。出版社はWAISのようなソフトによって、一つのコンテンツを複数のフォーマットで提供できるようになるし、読者にとっては自分の欲しい内容を、出版社の都合やタイミングではなく自分でコントロールして決め、自分のコンテンツを作ることができるようになる」とカール氏。

カール氏本人も、自分の欲しい情報を登録しておけば、それを優先的に伝えてくれるWAISを応用した電子新聞を毎日のビジネスに役立てている。